

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 91

学校名・団体名	学校法人就実学園 就実中学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	中学生の自尊感情と社会性を育む異年齢交流活動

〈活動・研究の意義および活動報告〉

〈活動に至る経緯〉

本校は所在地である岡山市以外からの通学生が多く、本コースの生徒144名の出身小学校だけでも100校以上となっている。地元の生徒が集まる公立の中学校と異なり、同級生はもちろん先輩・後輩にも知り合いがほとんどいない環境で、多くの生徒が生活している。また、本校には30以上の部活動・同好会があるが、練習場所が異なる上に、部活動の枠を越えて合同で練習をするようなこともないので、部活動が異なる生徒同士が接する機会が非常に少ない。そこで今年度の新しい取り組みとして、特別活動や道徳の授業を活用して、意図的・計画的に行う異年齢交流活動を実施することにした。

〈研究仮説〉

異年齢交流活動とは、学年を越えた縦割りのグループ等によって行う活動である。上級生が下級生を指導する機会を設定したり、共通の目的に向かって活動を遂行させる経験を積ませたりすることによって、右の図のような効果が期待できるという仮説を立てた。



(1) 自尊感情の育成

異年齢交流活動における成功体験を通じて、「人と関わることは楽しい」「やればできる」「自分は他の人の役に立っている」等の自信や誇りを持つことができ、自尊感情を育成することができる。

(2) 学ぶ意欲の向上

下級生は上級生から好ましい刺激を受けることにより、理想とする上級生像(モデル)を獲得することができる。「先輩のようになりたい」という将来の自分の姿に対する見通しを持つことにより、今後の自分が身につける

べき資質や能力を理解することができる。また上級生も、自分が行った「教える経験」を振り返ることにより、「次はもっと上手に教えたい」という気持ちを持つことができ、学ぶ意欲を向上させることができる。

(3) 社会性の向上

他者との関わりを好意的にとらえることができるようになった結果、「仲間を大切にしたい」という気持ちや「現実の生徒として恥ずかしくない行動をとろう」等の規範意識を持つことができるようになる。また顔見知りの生徒が増えることによって、普段の挨拶や会話の機会も自然と増える。これらの何気ない日常のコミュニケーションの増加が、生徒のコミュニケーション力を高めることができる。

<異年齢交流活動の主な内容>

期	月	テーマ	教育課程	対象学年	主な内容
1 学 期	4	校内見学ツアー	道徳	2年生と 1年生	2年生と1年生が4人組になって、2年生が案内をしながら校内見学を行う。
	4	中一・中二交流会	総合的な 学習	2年生と 1年生	2年生が企画したゲームやクイズで、1年生の歓迎会を行う。
	5	体育祭について	道徳	3年生と 1年生	体育祭の種目や準備物等について、昨年の映像等を使って3年生が1年生に説明する。
	5	職場体験について	道徳	3年生と 2年生	3年生が2年生の時にに行った職場体験の内容について、現在の2年生に説明する。
	5	全体交流会	総合的な 学習	全学年	全学年の生徒が混在する12のグループを作り、ゲームやレクリエーションを行う。
	7	修学旅行発表会	総合的な 学習	全学年	4月に行った沖縄修学旅行に関する3年生の発表会に2年生・1年生が参加する。
2 学 期	9	文化祭準備	道徳 特別活動	全学年	文化祭で行う沖縄物産展で販売する商品や店の紹介、当日の分担等を決める。
	9	文化祭沖縄物産展	行事	全学年	全学年の生徒が混在する12のグループを作り、沖縄から取り寄せた商品を販売する。
	9	体育祭	行事	全学年	クラス対抗で行う競技や仮装の他、3年生が考えたダンスを全校生徒で踊る。
	12	中一・中二交流会	特別授業	2年生と 1年生	1年生は平和学習発表会の内容を、2年生は職場体験発表会の内容をお互いに発表する。
3 学 期	1	百人一首大会	道徳	全学年	全学年の生徒が混在する25のチームを作り、百人一首大会を行う。
	3	合唱フェスティバル	行事	全学年	事前学習で合唱の心構え等を上級生が下級生に教える。本番では自由曲と全体合唱を行う。

<子どもたちへの効果>

異年齢交流活動が生徒の学校生活全般に与える影響を、それぞれの活動後に生徒が行った振り返りのワークシート及び「hyper-Q U よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート」*1から考察した。

それぞれの活動後の振り返りのワークシートでは、どの取り組みについても「とても良かった」「次もやってみたい」という回答が多かった。また「hyper-Q U」の過年度比較と経年比較からも、異年齢交流活動によって仮説の「(1) 自尊感情の育成」と「(3) 社会性の向上」が進む可能性が示された。

*1 「hyper-Q U」とは、学校生活における児童生徒の意欲や満足感、および学級集団の状態を質問紙によって測定する教育・心理検査である。